

王であるキリスト A 年

王であるキリストの祝日は、典礼上の他のおもな祝日のように、神からの重要な啓示を現しています。その光によって、人間の歩むべき道が照らされます。中でも王であるキリストの典礼はすべてを照らす光となり、キリスト者だれでもが歩むことのできる道を開いてくれます。聖霊の恵みによって、それを少しでも悟らせていただけるようにご一緒に考えてみましょう。

まず、啓示は二つの意味で捉えることができます。つまり、神からの啓示のほかに、歴史の進展の中で人間の理解力の成長の結果、重要な啓示を閃きによって捉えるということです。たとえば、地球は平べったいものであると長い間考えられていました。それがオレンジのように丸いものと分かるようになると、人間の考えと生活は大きく変わりました。ほかの例では、進化の発見です。宇宙が誕生したばかりのころは、鉱物しか存在しなかったことが明らかです。その後、植物、動物、そして最後に理性を備えた動物である人間が登場しました。その発展の過程において後の状態は前の状態に依存していることが分かります。したがって、人間が宇宙で一番複雑な存在であると言えます。鉱物、植物、精神的な要素からなっているからです。そのような発見は人間生活に光を投げかけるだけではなく、神からの啓示をよりよく理解するのを助けてくれます。たとえば、神が時間の経過のうちに万物を創造されたということは、一つの啓示です。そこに物が進化していくことと神の創造を合わせて学ぶことができます。神が万物を創造されたということは、手品師が帽子からウサギを取り出すようなこととは違って、無から物質を造り出し、そこに注がれた内的なダイナミズムを通して今の世界が次第に現れてきたと考えられます。私たちの生活を健全に送るためには、神からの啓示と人間の理解力によって物事を認識するということが必要です。両者の統合によって、人間の心は知恵の源泉となりえます。

人間生活についての様々な発見も大事なものです。地球に登場した原始人は、生きるためにまず一日に数回食べる必要を感じたでしょう。毎日そのニーズは変わらないので、明日、来週、来月、来年のことを考えて食料を確保する経済的な秩序を立てました。この秩序は、次第に複雑になっていく技術的な制度を含むようになります。それによって必要な道具を手に入れることができます。この両者の制度は教育制度を要求するようになります。そのおかげで、人間は秩序全体を理解し、それを保持するために協力します。それらの上に大事な悟りがつけ加えられました。それは、人間はパンだけで生きるのではなく、意味を必要とすることです。愛に通ずる意味です。愛は最高の原動力であり、社会の歩みや生活を有意義なものに発展させます。最後にそれらのすべての制度を管理する政治的な制度が作られました。

一方、その豊かな悟りによって作られた社会の構造には、どうしても神の啓示を必要とします。その啓示は歴史の歩みの中で次第に生じてきました。その歴史はイスラエルが神の民として神から与えられた土地に住み着くようになった時から始まりました。その時、イスラエルの部族はばらばらで、周囲の国々からの攻撃に対してしっかりした防御ができませんでした。それで、彼らを一つの民として一致させ、強力にする一人の王を持つことを思いつきます。しかし、その考えは神の民の中に危機を生じさせました。なぜなら、民の中には神こそイスラエルの唯一の王であるという信仰が生きていたからです。彼らはどのようにその信仰を生活に適用すべきかを学ばなければなりません。つまり、神がイスラエルの王であるという真理は、他の重要な真理、すなわち、神からの光と力なしにはどんな社会的な秩序も遅かれ早かれ崩れてしまうということです。「神によって建てられるのでなければ、家を建てる人の骨折りはむなしい。神によって守られるのでなければ、町を守る人の警戒はむなしい」とは詩編 127 が教

えるところですが。しかしながら、人間が果たすべき課題を神がなさるわけにはいきません。そこで神のみ心に適った王が必要でした。神からの光と力を受けて、神のみ旨を映し出す社会的な秩序を立てる王です。それがダビデ王のうちに実現されました。ダビデの生活によって神がイスラエルの王であり、後に預言者たちによって開かれた展望にしたがって、宇宙の王であり、その計画を人間の世界に実現するために、神からの光と力を受けて、神のみ心を忠実に言う人が必要とされる真理が、明らかにされたのです。これがすべての健全な政治の根本であると言えるでしょう。

ところでイスラエルの王としての神の属性は、すべての歴史、すべての人間についての誤りのない判断力を持つことでした。それを念頭においてヨハネ福音書の第 5 章を読むなら、イスラエルには前代未聞のことが語られていることに気づかれるでしょう。すなわち、御父、旧約聖書が神と呼ぶ方はだれをも裁かず、一切の裁きの権能をイエスに渡しておられます（ヨハ 5・22-23 参照）。言い換えると、御父はキリストに王権を与えられたということです。キリストは宇宙の王で、その意識を持っておられます。今日の福音で、使徒たちにそのことを語っておられます。栄光に輝いて天使たちと来られるとき、すべての国の民がその座の前に集められて（マタ 25・31-32 参照）一人ひとりが裁きを受けます。裁きと共に裁きの基準が啓示されます。その基準は、一人ひとりの人間を宇宙の王の兄弟姉妹として認めることであり、主が教えられたようにその人を扱うことにあります。すなわち、飢えている人に食べさせることはキリストに食べさせ、裸の人に服を着せることは、キリストに着せ、病人を見舞うことは、キリストを見舞うという意味になります。

そうした考え方は、当然、物事の本質に基づいているのです。キリストが王であると信じることからすべてを照らす悟りをいただきます。主は星の光の源であり、美しい花の装いをもってすべての人にほほ笑みを注がれます。太陽は夜明けにも日没にもキリストの栄光に満ちた輝きを語ってくれます。主は惑星の軌道を導き、鉱物から始まって人間に至る進化を導かれました。しかも、その進化を新しい高みに至らせ、主の聖霊を受ける人はキリストの神秘体の生きたメンバーとなります。世界を改善しようとする人間の努力は、キリストによって真の進歩につながります。主は、私たちが御父から授けられる曇りのない栄光をながめられるように、永遠という港で私たちを待っておられます（ヨハ 17・24 参照）。「私を離れてあなた方は何もできません」と言われます（ヨハ 15・5 参照）。主の支えなしに私たちは呼吸することも、考えることも、愛することも、生きることもできません。主のおかげで、この世の命を、そして永遠の命を生きることができるのです。主と共にいるなら、私たちの弱さは剛毅に、複雑さは輝く単純さに、罪深さは聖性に、生活は万物の王である主の働きへの参与になっていきます。王であるキリストは宇宙全体を支えておられるのです。

J. E. Perez Valera S. J.